（例）　※現在の様式とは一部異なります。

＜様式４－１＞

※この欄は記入しない

振興会受付欄（　　）

個人研究助成１年次交付申請書

※応募要項にある数字と語句を記入

研究領域番号（　２２　）研究領域（　社会（中）　）

１　研究主題（ある場合は副主題）

『社会的事象に関心をもち、課題に対して主体的に追究し、学び合う生徒の育成』

～中１　地理「世界の諸地域：北アメリカ州」の学習を通して～

２　研究者

○学校名（　　）職名（　教諭　）電話（　　）

（ふりがな）

○氏　名

※今年度末現在で記入

教職経験年数（　７　）年

○教育研究助成を受けたことの有無　　有（平成　　年度）・　㊫

３　研究主題設定の理由

現代社会では、グローバル化が進み、価値観も多様化している。生徒たちは社会を生きるために多くの課題を自ら考え、主体的に判断・解決し、行動していくことが必要となる。

社会科の授業では、広い視野で社会的事象を読み取り、それを考察して判断・解決していくことが大切であると考える。また、仲間とかかわり合う中で、自分では気づけなかった様々な考えにふれ、多面的・多角的な考え方をもつことも大切だと考える。したがって、生徒にとって日常的で具体的な社会的事象から始まる課題を設定することで、社会的事象への関心や意欲を高め、課題に対して主体的に追究できると考えた。そして、社会的な思考力や判断力を養うために、調べ活動を取り入れ、複数の資料やグラフ・地図などを活用してお互いに考えを伝え合い、学び合う中で考えを広げ、深めてほしいと願い、本研究の主題を設定した。

４　研究の内容

〈研究の仮説（手だて）〉

Ⅰ. 生徒が社会的事象に興味・関心がもてるように出合わせ方を工夫することで、「知りたい」「調べたい」という思いをもつことができるであろう。（出合わせ方の工夫）

Ⅱ. 生徒の「知りたい」「調べたい」の思いをもとに課題を設定し、追究の仕方を工夫することで、課題に対して粘り強く主体的に追究することができるであろう。（単元構想の工夫、一人調べの時間の保証）

Ⅲ. 仲間と考えを共有する場を設け、自分の考えをまとめることで、新たな考えに気づき、自分の学びをさらに広げ、深めていくことができるであろう。（板書の工夫、話し合いの工夫、振り返り）

5　研究計画

〈教材設定の理由と研究の方法〉

本教材では「地理：世界の諸地域～北アメリカ州～」を取り上げる。北アメリカ州のアメリカは生徒たちにとって行きたい国の１つで、イメージがしやすい国なのでアメリカに焦点を絞って単元をスタートする。

単元の導入では、『アメリカといえば〇〇！（アメリカのイメージや行きたい理由）』を生徒たちに聞く。生徒たちからは「大きい国」「大統領がトランプ」「ハンバーガー！食べたいから」「メジャーリーグ！観戦したい」など、様々な意見が自由に出ることが予想される。そこから、自分の興味のあることに対して、自分で課題を設定する時間を設ける。例えば「トランプ」なら「トランプ大統領はどんな人物なんだろう」、「ハンバーガー」なら『どうしてハンバーガーが有名なんだろう』など、それぞれ自分で「知りたい」「調べたい」課題を考える。そうすることで、生徒たちの興味が課題解決に向けての追究意欲へつながると考えた。その後、一人調べの時間を設ける。ここでは、資料やグラフ・地図などから根拠となるものを探し、課題に対して自分なりの考えやその理由をもてるようにする。その後、自分で調べたことを全体で共有する場を設定する。ここでは、生徒たちの調べたことをグループ化できるように板書を工夫する。例えば、「トランプ大統領」のことやホテル、航空機開発のことを調べた生徒の意見から「経済」や「工業」、「ハンバーガー」のパンの小麦のことを調べた生徒の意見から「農業」など、生徒たちが調べてきたことを「経済」「農業」「工業」「自然環境」「人口・人種」「アメリカ以外の北アメリカ州の国」の６つに分類できるようにする。ここで、グループ化をすることで、生徒たちはアメリカの特徴のヒントがここにあることがとらえられるだろう。また、自分が調べてきたことがどこかのグループの中に入ることで、自分の調べてきたことに自信をもてるだろう。その後、自分が調べたことを深く考えていけるように、「アメリカは他にどんなものをつくっているのだろう」「小麦以外にどんなものが有名なんだろう」「どうしてこんなにたくさん作れるのだろう」など、この６つの観点からまた課題を設定し、アメリカの特徴を調べる時間を設ける。その後、全体で意見を交流し、アメリカの特徴をとらえられるようにする。また、その中で日本との共通点や違い、かかわりについて着目できるようする。そして次時にアメリカと日本を６つの観点から比較する。そうすることで、より特徴が明確になるだろう。最後に今まで学んできたことを根拠に日本とアメリカ双方の立場に立って、広い視野で考えられるように『これから日本はアメリカとどのように付き合っていけばよいのか』を話し合う時間を設け、生徒が自分なりに考え、判断していくことが社会参画の一歩と考える。

〈研究の計画〉

本年度の研究（１年次）は、自分が興味をもったことから課題を自ら設定し、追究していけるように考えた。２年次は、１年次の研究を検証し、成果と課題を踏まえて改善した上で取り組んでいきたい。また２年次は、自ら多面的・多角的に考えられるような手だてを講じたい。そうすることで、生徒たちの味方・考え方はさらに広がるだろう。３年次では、多くの事柄から、自ら判断し、社会と自分とのかかわりを感じられるようにしたいと考えている。

上記の研究に対する研究費の助成を申請します。

令和２年５月２０日

申請者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

上記の者の申請を認めます。

校長氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

愛知教育文化振興会理事長　様